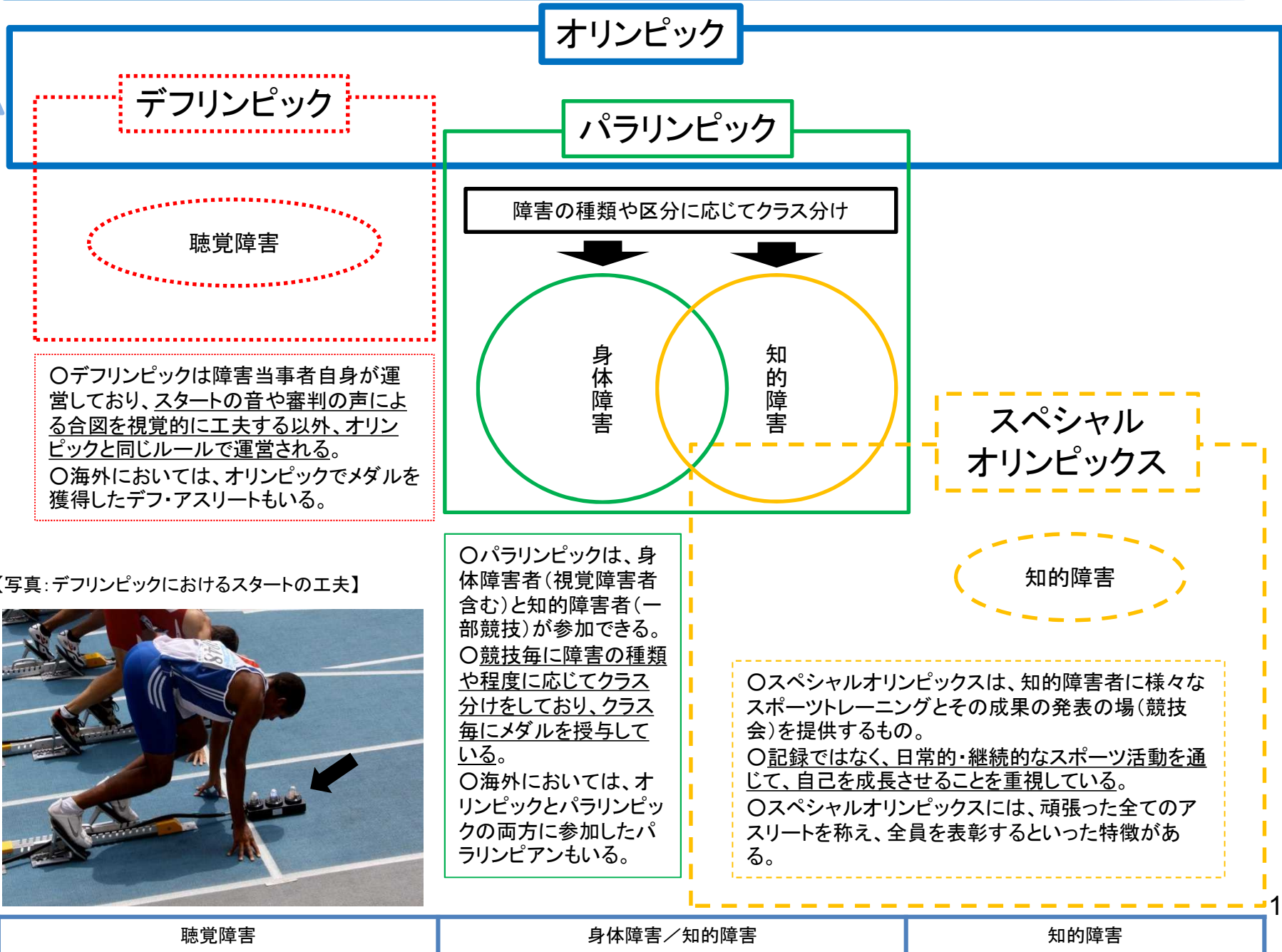


障害者スポーツの総合国際競技大会の関係

競技性 ↑



パラリンピック（概要）

主催

国際パラリンピック委員会(IPC) (本部:ドイツ(ボン))

特徴

オリンピック終了後に同じ開催地で開催される、障がい者スポーツの最高峰の大会(聴覚障害者を除く)。

4年に1度、夏季競技大会と冬季競技大会が開催されている。

実施競技

(直近大会)

夏季第14回 2012年(平成24年)ロンドン(イギリス)

…20競技 陸上競技、水泳、卓球、柔道、アーチェリー、ボッチャ、自転車、馬術、5人制サッカー、7人制サッカー、ゴールボール、パワーリフティング、ボート、セーリング、射撃、シッティングバレーボール、車椅子バスケットボール、車いすフェンシング、ウィルチェアーラグビー、車いすテニス

冬季第11回 2014年(平成26年)ソチ(ロシア)

…5競技 アルペンスキー、クロスカントリースキー、バイアスロン、
アイススレッジホッケー、車いすカーリング

参加状況

夏季第14回 2012年(平成24年)ロンドン(イギリス)

…世界164か国・地域6,740名

冬季第11回 2014年(平成26年)ソチ(ロシア)

…世界45か国・地域692名

次回大会

夏季第15回 2016年(平成28年)リオデジャネイロ(ブラジル)

冬季第12回 2018年(平成30年)平昌(韓国)

デフリンピック（概要）

運営主体

国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)

概要

- ・4年に一度、世界的規模で行われる聴覚障害者のための総合スポーツ競技大会。
- ・デフリンピックでは全てのコミュニケーションが国際手話により行われる。
- ・視覚的な工夫(スタートの音を足下のライトの点灯で知らせたり、審判の声による合図を旗で知らせたりするなど)以外はオリンピックと同じルールで運営される。
- ・安全を確保するため、競技中の補聴器の使用は禁止されている。

参加資格

補聴器を外した裸耳状態での聴力損失が55デシベルを超え、各国のろう者スポーツ協会に登録している者

参加国・人数

夏季大会(70か国・約2,500人) ソフィア/ブルガリア(2013年)
冬季大会(27か国・選手344人・役員スタッフ348人)

ハンティ・マンシースク/ロシア(2015年)

開催規模

夏季大会(全20競技)

…陸上、バスケットボール、バレーボール、サッカー、柔道、ビーチバレーボール、バドミントン、卓球、水泳、水球、テニス、空手、自転車、ボウリング、テコンドー、射撃、レスリングフリースタイル、レスリンググレコローマン、マウンテンバイク、オリエンテーリング

冬季大会(全5競技)

…アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリー、アイスホッケー、カーリング

次回大会

夏季大会

2017年 第23回夏季デフリンピック競技大会(アンカラ/トルコ)

冬季大会

2019年 第19回冬季デフリンピック競技大会(場所未定)

スペシャルオリンピックス世界大会(概要)

○概要

- ・4年に1度、夏季及び冬季に開催される知的発達障害者のスポーツの世界大会。
- ・全てのアスリートを称え、全員を表彰するといった特徴がある。

○運営団体 スペシャルオリンピックス(SO) (本部:アメリカ(ワシントンD.C))

○実施競技(直近大会)

夏季第14回 2015年(平成27年)アメリカ(ロサンゼルス)
25競技 水泳、長距離水泳、陸上競技、バドミントン、
ボッチャ、ボウリング、バスケットボール、自転車競技、
馬術、サッカー、ゴルフ、体操、新体操、ハンドボール、
柔道、カヤック、パワーリフティング、ローラースケート、
セイリング、ソフトボール、卓球、テニス、バレーボール、
ビーチバレー、トライアスロン

冬季第10回 2013年(平成25年)韓国(ピョンチャン)

8競技 アルペンスキー、クロスカントリースキー、
スノーボード、スノーシューイング、フィギュアスケート、
ショートトラックスピードスケート、フロアホッケー、
フロアボール

○次回大会

- ・冬季大会第11回 2017年(平成29年)シュラートミンク(オーストリア)

夏季				
回	年	開催国(都市・州)	参加国地域数	選手数
1	1968	アメリカ(シカゴ)	3	1,000
2	1970	アメリカ(シカゴ)	3	2,400
3	1972	アメリカ(ロサンゼルス)	3	1,500
4	1975	アメリカ(ミシガン州)	12	2,000
5	1979	アメリカ(ニューヨーク州)	20	2,500
6	1983	アメリカ(ルイジアナ州)	48	4,000
7	1987	アメリカ(インディアナ州)	60	4,500
8	1991	アメリカ(ミネソタ州)	107	6,000
9	1995	アメリカ(コネチカット州)	145	7,000
10	1999	アメリカ(ノースカロライナ州)	150	7,000
11	2003	アイルランド(ダブリン)	166	7,000
12	2007	中国(上海)	169	7,000
13	2011	ギリシャ(アテネ)	170	6,961
14	2015	アメリカ(ロサンゼルス)	165	6,500
15	2019	未定		
冬季				
回	年	開催国(都市・州)	参加国地域数	選手数
1	1977	アメリカ(コロラド州)	2	346
2	1981	アメリカ(バーモント州)	7	600
3	1985	アメリカ(ユタ州)	14	825
4	1989	アメリカ(ネバダ州 カリフォルニア州)	27	1,000
5	1993	オーストリア(ザルツブルグ)	51	1,200
6	1997	カナダ(トロント)	82	1,780
7	2001	アメリカ(アラスカ州)	80	2,000
8	2005	日本(長野)	84	1,829
9	2009	アメリカ(アイダホ州)	100	2,200
10	2013	韓国(ピョンチャン)	113	3,300
11	2017	オーストリア(シュラートミンク)		